



校長室だより No.2

自分の身は自分で守ろう！ ～不審者対応訓練～

5月20日（火）に白山警察署の方をお招きして、不審者対応の避難訓練を行いました。不審者役を本校職員が行い、子どもたちは、放送を聞いて教室での行動の仕方（机をバリケード代わりにする、先生の指示に従う、静かにしてすぐ逃げられるように待機する等）を確認したり、不審者確保後の避難行動の仕方（放送を聞き、所定の場所に静かに避難する、落ち着いて行動する、先生の指示に従う等）を訓練したりしました。

その後、プレイルームに移動し、白山警察署の方から、「防犯＝自分の身を守ること」についてお話を伺いました。また、腕をつかまれた場合に逃げる方法（護身術）も教わりました。大人が手をつかんでも振り切って逃げることができ、驚きました。

警察署の方のお話で印象に残ったのは以下の3つです。

- ①「いかのおすし」（ついていかない、のらない、おおごえをだす、すぐにげる、しらせる）は全て大事であり、これは大人になっても大事なことです。大変なことから「逃げること」「誰かに知らせること（相談すること）」を忘れないでほしい。
- ②「いつもと違うぞ」「何か気持ち悪いな」「変な感じがする」など、自分の感じた違和感が不審者や不審物ではないかという判断の決め手となる。そのように感じたら、すぐにその場から離れること、その違和感（不審者・不審物）を誰かに知らせること。
- ③一番大事なのはみんなの命。登下校中に不審者に出会った時は、重いと感じたら大事なランドセルでもその場に置いて逃げることに。

これらの指導は、普段から先生方も行っていることですが、子どもたちの真剣にお話を聞く態度や表情から、さらに心に届いているように感じました。

先日も、東京の小学校に男性2名が侵入し、対応にあたった教職員が負傷するという事件が起こったばかりです。教職員だけでなく児童も常に危機意識を高く持つことで、危険を回避する判断力や行動につながると 생각합니다。これからも避難訓練を真剣に行い、いざというときに適切に行動できるよう努めていきたいと思っています。



「いじめについて考えよう」 ～全校朝会のお話より～

白峰小学校では、月初めの全校朝会で、学習や生活の目標についてみんなで確認したり、各学年の学習発表会を行ったりしています。また、この場を活用し、私からの願いや思い、子どもたちに期待すること等をお話する機会も設けています。

5月は、「いじめ」についてお話をしました。学年の枠を越えて全校仲良く生活している白峰っ子には、関係のないお話かもしれませんが、いじめについて一人一人がしっかりと考えることや先生方の願い、学校としての姿勢等伝えることは、とても大切なことだと考えるからです。

お話の主な内容は、いじめは法律で禁止されており、守らなければ責任を問われることやいじめの観衆や傍観者もいじめをしていることと同じであること、また、「学校は、どんなことがあってもいじめを許さないこと」「先生全員でいじめられている人を守ること」「だめだとわかっているのにいじめをしてしまう人がいたらお家の方に連絡して一緒に考えてもらうこと」等です。そして、最後に子どもたち一人一人に「いじめのない白峰小学校にするために自分自身ができることはなにか」を問い、考え行動に移して欲しいと伝えました。終始真剣な表情で、一生懸命に聞いていた子どもたちの姿を見て、いじめのない安心して学校生活を送ることができる笑顔がいっぱいの安全な白峰小学校を職員と子どもたちでしっかり守っていききたいと改めて感じました。

